



会 報

第17号

平成2年9月

社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



新収蔵品紹介

岩橋英遠^{かいしゅん}「魁春」

滝川市出身の岩橋英遠は、日本美術院を中心に活躍し、昨年は文化功労者に叙せられた。文字どおり、現代日本画壇の重鎮である。この作品は、仲間たちとグループを結成してさまざまな試みを行っていた1940年頃の制作で、純化された形態、色彩、構成に特色があり、象徴的な表現となっている。抽象主義や超現実主義などからの影響をうかがわせる漸新な作風であり、こうした実験的試みは、戦後に大きく飛躍、大成していくこの画家の重要な足がかりとなった。魁春とは春にさきがけて咲く梅のことである。



道立近代美術館の新収蔵品について

北海道立近代美術館学芸部参事

鈴木正實

道立近代美術館は準備室発足の時点から、いわゆる“目玉”と呼ばれる、とび抜けて高価な名画に眼を向けることよりも、かたまりとしてのコレクションに意義を見出し、できるだけ系統的な収集を心がけてきました。

ガラスのコレクションは、国内のみならず海外でも高く評価され、また当館のバスキンを中心としたエコール・ド・パリのコレクションだけによる企画展が、これまで3度、他の公立美術館で開催されるまでになりました。これは一点豪華主義とは無縁に、収蔵作品間の相互関係に密度をもたせる方針をとってきたからに他なりません。

しかし、近年の美術作品の高騰は、こうした地道な活動にも影を落としていることは確かです。国際的なオークションが開かれるたびに、我々の想像をはるかに超えた額で次々と作品が落札される現況は、まさに狂気の美術市場といっても過言ではありません。

かといって、収集予算の頭打ちの実情は、どこの公立美術館でも大差がないといえます。美術館にとって、収集活動がきわめて困難な時代となったわけです。

さて、去る7月4日、平成2年度の第一次収蔵作品選定評価協議会が開かれました。購入35点、寄贈51、合わせて86点の作品の収蔵が決定し、総点数は2,845点となりました。

もちろん、これは先に述べたコレクションの構造を眼目において収集されたものですし、この困難な時代にも対応すべく、さまざまな情報を入手したうえで綿密な検討が加えられ候補にあげられたものです。

例えば、購入のガラス作品です。今回はエドワード・ハルドやインゲボリ・ルンディンなど4作家4点のスウェーデン・ガラスとアール・デコのアンドレ・テュレ（フランス）の作品が入りました。

スウェーデンのガラスは1920年代になって、にわかに注目を浴びだし、以後ヨーロッパのガラス史上に重要な位置を占めるようになりました。画家や彫刻家をデザイナーとして工場に招き、職人との共同制作による作品は、量産品のデザインをシンプルかつ優雅に変貌させ、やがてその独特な造形は、北欧デザインの原形を成すまでに至りました。当館のガラス・コレクションには欠くべからざる存在なのです。また、最近ヨーロッパの美術市場でも扱われるようになりましたが、まだそれほど価格ではなく、今のうちに収集を進めておくべき作品である

わけです。

テュレにも同様のことがいえます。重厚な透明クリスタルによる流動的なデザインは、他のアール・デコの作家にはみられない独自性を示しています。アール・デコ期の充実を図って、かねてから収集対象にあげられていましたが、このたび18点というまとまった点数の情報を得、市場価格よりも相当安く収蔵することができました。

油彩画のリチャード・アヌスキヴィッチ、ヴィクトル・ヴァザリリの3点と版画のヤコブ・アガムの4点は、キネティック・アートです。一昨年より前庭の動く彫刻群と連動させて、視覚的な動きをともなった絵画を収集してきましたが、これらのキネティック・アートの作品は、今後、複雑で多様な様相を呈する現代美術を収集していくうえでの一つの核となります。

本誌の表紙を飾る岩橋英遠の日本画は、この画家の画業展開のみならず、当時の日本画壇における前衛的な試みを知るうえで貴重な作品です。

寄贈作品では、まず、北海道美術館協会の売店ボランティアによる渡会純价の版画『音の旅人』シリーズ（2～6巻）をあげておかなければなりません。ボランティアの方々が手造りの商品を販売、その益金が充てられたものですが、すでに所蔵していた第1巻と合わせて、6巻の版画集をそろえることができたわけです。

また、今年の4月に急逝された当館の協議会委員、阿部要介さんのご遺族から、香典返しとしてガレ工房の花器が、さらに本道版画界の発展に大きな役割を果たした阿部貞夫の遺作41点が、やはりご遺族から寄贈され、北国の自然風土に根ざした創作を展開した同作家の画業が一望できることとなりました。これらの寄贈作品により、当館の各分野のコレクションが一層充実されたことはいまでもありません。

美術館準備室の開設から数えて18年、収集費の総額は約19億円となります。かのゴッホの「ひまわり」の58億円には遠く及びませんが、18年の年月をかけたコレクションには、有機的な構造の厚みが確実に増してきています。先に収集活動のきわめて困難な状況を述べましたが、こうした時代に対応していくためには、今後も構造の分析を怠らず、情報収集を一層活発にしてコレクション充実を推し進めていきたいと考えています。

突破したい1,000名の壁

社団法人北海道美術館協会総務部長

大萱生 明



『美術館の真の価値は、その建物だけでなく、そこに展示される作品の質の豊かさや、館の内外で考えられるさまざまな美術についての普及活動にあると思います。

道内の美術館が、住民に対し、満足を与えるような計画を力強く実施するためには、それをとりまく住民の高い関心、十分な財源など、多くの条件が必要となります。

美術館が、より高い美術文化を広く住民に提供し得るよう、社団法人北海道美術館協会を設立し、道立の美術館等の事業活動に協力するとともに、美術に関する道民の知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、もって本道美術文化の振興発展に寄与しようとするものであります。』

これは美術館協会が社団法人として、発足するときの設立趣意書ですが、このような趣旨で広く道民に呼びかけ、昭和52年に任意団体として発足して以来、活発な活動を展開してきました。

趣意書にあるように、道民の美術に対する関心を高め、且つ必要な財源の増強を図るためには、会員の拡充というところが最重要課題であります。

会員の皆さんがこぞって、このことに努力してきた結果、110名で発足した会員の数は毎年約10%ずつ増加がみられ、平成元年度末では一般会員1,039名（個人964名、法人75団体）に拡充しました。また資産の規模もボランティア部による売店活動などの収益事業もあって、社団法人として発足した当時の約4倍の4,000万円となっております。そのうちの美術振興基金積立金も1,473万円となり、これらは会員一人ひとりが目標をもって、努力してきた結晶といえると思います。

しかし、500万の道民、160万の札幌市民を擁する道央地域を中心にして、12～3年も努力してやっと10倍の1,000名程度の会員では、些かさびしい感じがしないで

しょうか。道民の美術に対する関心が薄いのか、或いは普及活動が不十分なのか、残念なことです。

本年の4月にお亡くなりになられた、前副会長建部直文さんが、本誌の15号で会員拡充というのは、「万古不易」の命題なのかもしれないと書かれていますが、まさにそのとおりかと思えます。

昨年度の個人会員の動きをみてみますと、前年度末で861名でありました。皆さん方のお力添えをいただきながら、年度内に208名の新人会員を確保しましたが、残念ながら退会者が105名もおりまして、結局103名の増にしかありませんでした。個人会員が1,000名を越すことはひとつの壁のようになっているようです。

せっかく会の趣旨に賛同して、入会されたのですからでき得る限り退会しないでほしいものですが、退会される大半の方が事務局に退会の届けをせずに、会費を納めなければ自然退会になるものと誤解されているようです。皆さんがご承知のように協会の定款では、本人の申出がないかぎり、会費が未納でも2年間は会員として取り扱わなければならない、その間は会員としてのサービスを受けられることとなります。その事務処理と経費はバカにならないと思われれます。

小さな事のようにですが、それだけ会全体に迷惑をかけることになるので、会員としての義務も忘れないでほしいものです。

本年度も昨年度に引き続き、個人会員300名法人会員50団体を目標に会員拡充を図ることが、総会において賛同を得たところです。

会員の皆さん一人ひとりが、協会の主権者であることをお考えいただき、一人でも多くの友人知人を協会の会員にお誘いいただくことを願っております。

世界の美術に誘った音楽の旅

夏休み期間中、道立近代美術館が実施している子どもと親のためのイベント「サマーミュージアム」は恒例の行事となって市民の皆さんに好評ですが、本年も7月28日から8月12日にわたって実施されました。

本年は、「びっくり！おもしろ・夢の旅」というテーマで、たくさんのボランティアの協力を得ながら、創作広場・映画会・絵本シアターなどの催しが行われましたが、8月4日には、北海道新聞社の後援を得て旅と美術の関わりを広く紹介する、子どもと親のためのコンサート「世界の音楽への旅」が開催されました。

この事業は、協力が美術館の事業に協力するため、本年度から新たに予算を組んだものです。

当日は、山本毅さんの司会・解説、山本由美子さんの



世界の名曲を紹介してくれたコンサート

ヴァイオリンとヴィオラ・中川和子さんのピアノの見事な演奏が講堂をうめた子どもと親を魅了し、日本・イギリス・フランス・イタリア・スペイン・オーストラリア・ベルギー・チェコスロヴァキア・ポーランド・ロシアなど世界各国へ素晴らしい旅を案内してくれました。

本年度の美術研修旅行

当会の企画する美術研修旅行は、例年好評を得ておりますが、本年の海外旅行は第11回目で11月13日から11月25日までの13日間「イタリアの風景と美術館めぐり」を企画し、既に募集人員に達しました。

また、国内旅行は第8回目となり10月16日から10月19日までの4日間、群馬県立近代美術館で開催中のイタリア・ウルビーノ・ルネッサンス展をメインとする「信州の里美術の旅」を企画し、実施業者から会員の皆さんにご案内したところです。

それぞれ美術の秋にふさわしい研修旅行になるものと



群馬県立近代美術館 前庭

期待されています。

「会員の集い」開催は12月初旬の予定

例年、会員の拡充を願って実施しております「会員の集い」は、本年第8回目を迎えることとなりますが、12月の初旬に実施する予定で事業部会が企画の検討を行っています。具体的な内容が決定次第、会員の皆さま

にご案内することになっておりますので、新しく会員になる希望者などお誘いのうえ多くの参加者があることを願っています。

新役員の紹介 (任期2.6~4.6)

本年は役員の改選期で、総会及び理事会において新しい役員が次のとおり選任されました。退任された理事は故建部直文、北島吉光、相川正志、大廣元一、徳丸義明、長谷井真信の各氏です。なお、北島吉光、長谷井真信の両氏は特別会員になりました。

職名	氏名	所属部会	住 所	郵便番号	電話番号
会 長	武井 正直		札幌市中央区北3条西13丁目3番地 チュリス北3条902	060	261-0564
副会長	秋山 喜代		札幌市東区北6条東3丁目 秋山愛生館	065	241-1151
"	木路 毛五郎		札幌市北区北31条西11丁目 北斗シテイマンションA棟511	001	758-7262
専務理事	鈴木 英二		札幌市中央区宮の森2条12丁目5-10	064	621-6968
理 事	有坂 妙子	特	札幌市中央区南13条西1丁目1-76 アスレチックパレス805	064	511-6533
"	阿部 三恵	広部長・事	札幌市中央区南13条西23丁目 啓明グランドハイツB-505	064	551-4322
"	今井 リツ	特	札幌市中央区南12条西14丁目	064	561-0914
"	伊坂 重孝		札幌市中央区南7条西1丁目	064	521-1208
"(新任)	浦田 久	事・広	札幌市北区北23条西8丁目	001	736-1752
"(新任)	大萱生 明	総部長・特・ボ・旭	札幌市東区北22条東19丁目3-19	065	781-5998
"	気境 公男	特	札幌市南区藤野5条3丁目433-23	061-22	591-8897
"	木内 和博	旭	旭川市神居忠利B7-128	070	62-8811
"	小杉 八千代	事	小樽市富岡1-32-191-902号	047	23-1825
"(新任)	斎藤 一郎	旭・広	旭川市東3条4丁目	070	23-2082
"(新任)	佐藤 直一	総	札幌市南区真駒内本町7丁目1-3 ロジェ真駒内102号	005	582-2020
"	繁富 文承	事	札幌市中央区南12条西6丁目	064	551-4616
"	杉野目 かつ子		札幌市中央区南19条西11丁目	064	561-4515
"	関川 節子	事部長・ボ	札幌市北区麻生町12丁目9-15	001	756-0609
"(新任)	相馬 久子	ボ部長・事	札幌市南区真駒内緑町2丁目13-2-402	005	581-0758
"	谷 貴子	特部長	札幌市南区石山3条6丁目4-20	005	591-7536
"	高橋 英雄	広	札幌市中央区南2条西26丁目	064	641-4385
"	堂垣内 香千枝		札幌市中央区宮の森2条13丁目6-13	064	642-3018
"	馬場 昭也	旭部長・事	旭川市神居5条9丁目	070	61-5226
"	平瀬 徹		札幌市中央区宮の森2条12丁目5-5	064	641-2479
"	山本 武		札幌市中央区南9条西4丁目1-2 ドミノ中島公園408	064	531-4224
"	和田 壬三	総・事	札幌市豊平区平岸7条15丁目2-23	062	841-4543
監 事	中村 松寿		札幌市南区真駒内泉町3丁目3-3	005	581-1531
"	山川 力		札幌市豊平区平岸4条5丁目4-18	062	811-0313

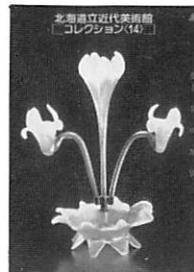
㊦ 総=総務部、事=事業部・広=広報部・持=特別事業部・ボ=ボランティア部・旭=旭川美術館部

テレカ第4集好評発売中

道立美術館の収蔵作品を紹介するテレホンカード第4集として、本年度はジュール・パスキンの「花束をもつ少女」、エミール・ガレの「花に蝶交ランプ」、ナンシーの工房の「シクラメン形花器」を製作し販売中です。贈りものなどに喜ばれております。



エミール・ガレ
「花に蝶交ランプ」



ナンシーの工房
「シクラメン形花器」



ジュール・パスキン
「花束をもつ少女」

北海道立近代美術館

北海道立近代美術館では9月12日（水）から10月21日（日）までワイエス展―「ヘルガ」を開催します。

アンドリュー・ワイエス（1917～）は現代アメリカの国民画家とも呼ばれるリアリズム絵画の巨匠です。アメリカの片田舎に生活し、身の回りの自然や親しい人々を繊細かつ確かな描写でとらえた作品は、多くの人々を魅了し続けてきました。これは作品の舞台となった古き良きカントリー・シーンが人々の郷愁を誘うことにもよりますが、それ以上に描かれた対象の内に宿る神秘的な生命感が、見るものに深い感動を与えるからでしょう。

そのワイエスが15年間にわたって一人の女性をひそかに描き続けた<ヘルガ・シリーズ>の存在が、今から3年前に明らかとなると、美術界はもとよりマスコミも巻き込んだ大きな話題となりました。モデルとなったヘルガ・テストーフはペンシルヴェニア州にあるワイエス家の隣人で、牧場で働くドイツ系女性です。シリーズでは、四季折々の自然を映じた彼女のすがたが、「編んだ髪」「裸のヘルガ」「果樹園にて」「復活祭」など35のテーマに沿いながら、テンペラ、ドライブラッシュ、水彩、鉛筆素描によって描き綴られています。各作品の質の高さはいまでもありませんが、さらに、一人の女性の38才から53才までを描いた膨大な作品群を通観する時、そ



アンドリュー・ワイエス 編んだ髪 1979

の連なりは、深い情感をたたえて時の流れに移ろう“生命”の肖像として結実し、強い感動を呼び起こさずにはおきません。また完成作へ至る数々の習作に触れることにより、一つの対象をめぐるワイエスのまなざしと表現がどのように展開したかを目の当たりにすることもできます。

ワイエス芸術の集大成ともいべき本シリーズの主要作126点を紹介する今回の展覧は、ワシントン、ニューヨークなどアメリカ各地での巡回に引き続いて、日本で初めて公開されるものです。ワイエス芸術を堪能するまたとない機会となるでしょう。

会期中「ワイエスとその技法」と題した特別講演会やワイエス芸術を紹介する特別講座を予定しています。

北海道立三岸好太郎美術館

秋の特別展示として、「上海の絵本―中国モダン都市の詩―」（10/5～11/25）を開催します。大正15年の三岸好太郎の中国旅行をとりあげ、なかでも三岸が見た当時の上海の様子を作品、資料により紹介しようとするものです。

タイトルにある「上海の絵本」とは、三岸好太郎が上海の印象をもとに書いた散文詩で、これがこの展示の中心テーマとなります。「…白いロココ風の馬車が二馬路の角を通る白い馬車白い二頭の俊足を持った馬、白いピロートの服をつけた駈者。…アングロチエイニイズ、システムのゼスフィールド公園 ロンググラスの上に静かに立つた水兵服の少女…チョコレート屋の店先 におい午後の光の中に昼寝する尾の長い目の青いベルシャ猫…」詩は国際都市上海の風物をロマンチックに語ります。この詩で表現された情景に、絵画作品や写真、あるいは文学資料、地図など様々な角度からアプローチし、上海の街の裏表、そして三岸の関心のあり方を探ります。また春陽会、国画会で活躍し、三岸と共に中国を旅した岡田七蔵の中国風景を描いた作品を紹介し（初公開）

所蔵品展は今年から各期ともテーマを設けています。



三岸好太郎 上海風景 1926

第Ⅲ期（～10/2）は「道化とマリオンネット」、第Ⅳ期（特別展示と併開10/5～11/25）は「三岸好太郎のすべて」、第Ⅴ期（11/28～平成3. 1/30）は「風景画を中心に」、第Ⅳ期（2/1～3/31）は「オーケストラ」のテーマで展示を構成します。

美術館コンサートは、今年度はあと2回の実施を計画しています。1回は秋の特別展示期間中の11月上旬に、もう1回は平成3年2月上旬（いずれも午後2時～）に行う予定です。

今年度より、音楽家を志す若い方々による演奏会を実施しています。9. 12. 1. 2月のそれぞれ最終土曜日と3月23日（いずれも午後3時～）に熱演がお聴きになれるでしょう。

北海道立旭川美術館

9月～1月 展覧会紹介

9月29日(土)から11月4日(日)まで、「近代彫刻の流れ—西洋と日本—」が開催されます。本展は、彫刻の街、旭川の開基100年と、中原悌二郎賞20周年を記念して企画されたもので、ロダンから日本の抽象彫刻家にいたるまで、36作家、41点の彫刻と19点の素描・版画を紹介するものです。ロダン、ブールデルに代表される生命感あふれる造形が、荻原守衛、高村光太郎らに引き継がれ、日本的な追求がされていった潮流。また、20世紀の前衛美術運動のなかから生まれたブランクーシなどの抽象的な造形と、戦後日本の抽象彫刻をリードした堀内正和の作品の対比など、西洋と日本における彫刻100年の歩みをご覧ください。

11月10日(土)から12月22日(土)までは「木のニューウェーブ、アイコンの森の思索者たち」を開催いたします。本展は、1980年代後半以降に発表された木の現代彫刻を紹介するものです。阻部典英、川越悟、土屋公雄、戸谷成雄、深井隆、舟越桂といった、国際的にも活躍している作家の作品を通して、現代美術における“木”という素材の意義を探ろうとするものです。

1月5日(土)から2月17日(日)までは、「所蔵品展—旭川の絵画—」を開催いたします。本展は、当館の所蔵品を中心に、大正から現代まで、旭川画壇の歴史を紹介しようとするものです。

秋から冬にかけて、独自企画の展覧会が続きます。旭川にお越しの折は、是非、当館へお立ち寄りください。(「木のニューウェーブ—アイコンの森の思索者たち」出品作)



舟越桂「夏のシャワー」

北海道立函館美術館

9月23日(日)～10月28日(日)

昭和戦前期の1930年～40年代は、一般には、恐慌と戦争の不安にいろどられた、暗く危機感があふれる時代として、とらえられています。しかし、一方で文化の面からみれば、この時期は、日本の近代文化全般が成熟しはじめ、多彩な展開を示すようになった実りある時代でもありました。美術の分野も例外ではなく、ことに油彩画のジャンルでは、官展系のアカデミックな写実描写や日本のフォーヴィスムの流れのほかに、油彩による日本的な絵画表現の可能性が追求され、超現実主義、抽象主義の前衛絵画も盛んに試みられているなど、多彩な傾向がみられました。

そうしたなかで、これまで明確にされる機会は少なかったものの、見落とすことのできないのが、新しい具象表現のありかたを求めた村井正誠、吉原治良、猪熊弦一郎、山口薫、大沢昌助、香月泰男ら若き画家たちの動向です。彼らは、所属する美術団体や個々の作風こそ異なりましたが、いずれも1930～40年代に、同時代的な共通性をうかがわせる表現方向を模索しました。それは、事物を単に再現描写するのではなく、色面の対比と明快なフォルムにより形象を描きあらわそうとする試みです。そして、そこには、当時の都市生活者の鋭敏なモダニズム感覚と豊かなポエジーが、鮮やかに息づいております。

本展は、こうした昭和戦前期の絵画の一動向を展望し、再考するとともに、戦後の具象絵画のひとつの原点を探ろうとするものです。



大沢昌助「岩と人」
1940(昭和15)

財団法人札幌彫刻美術館

第5回北の彫刻展—北海道の作家たち・730日の軌跡—
8月30日(日)～10月14日(日)

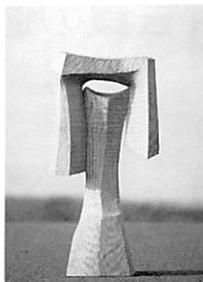
「北の彫刻展」は、開館以来隔年で開催している展覧会です。毎回、現在すぐれた創作活動を続けている北海道在住の作家を紹介してきました。作家が、それぞれ独自に取組んだ作品は、所属団体の枠を越え、表現方法も人体などの具体的なものから、抽象的なものが、乾漆・ブロンズ・樹脂・鉄・テラコッタ・木・石とあらゆる素材によって造形化されています。材質的には、3回目頃から、木と石が出品作品の大半を占める傾向にあります。

1982(昭和57)年の第1回目から出品していただいている作家を含め、今回は26名による最新作54点の作品が出品されます。このなかで、前回からの730日の軌跡のなかに、毎回出品していただいた本田明二・砂澤ビッキ両氏の逝去がありました。今展覧会開催にあたり、ご遺族の方々のご好意により遺作を出品していただきました。

「北の彫刻展」終了後には、平成2年度後期「本郷新常設展」を開催します。本郷新彫刻の本幹をなす様々な裸婦を石膏像を中心に、初公開作品を含めた展示を予定

しています。それに関連して記念館では裸婦デッサンを展示します。彫刻家のデッサンは、新鮮な印象を与えることでしょう。

そのほか、9月19日(水)には、当館で開催し好評を博した「アフリカ彫刻展」に、貴重なアフリカのマスクのコレクションを公開して下さった北大教授橋本信夫氏による文化講演会が、『アフリカの森の生活と文化』と題し開催されます。また、11月8日～11日の3泊4日で大原美術館などを訪ねる彫刻めぐりの一環『吉備路の美を訪ねて』を予定しています。



不変 高橋昭五郎
木彫 1990



泉 伊藤寿朗
木彫 1990

近 況

東欧美の探訪に参加し7年前に比べ、その間に成長した樹や郊外に建ったビル等で印象も変わりましたが、その風景を画材に41点の油彩の個展を開きました。6月下旬です、初めてセビアを使ったF80号2点のうち、ドレスデンの河沿いの旧城は若い人に、まだ補修を続けている建物は年配の方々から評を得ましたが、意外でした。

個展後は近くの原始林で、親子づれにクワガタの木を案内したり採ったものを渡そうと戻り道したり又大声で呼んで、走り寄る幼な子にありがとうと云われて、思わず笑い返したりして、心身の養生に努めております。

山 田 武 雄



ブタベストのブタ城
(個展の作品より)

1989、ベルリン

昨年の東欧の旅は、二度と行かれない国との覚悟で出かけ、東西ベルリンの悲劇的な壁を見たとき、私は夢中でシッターをきった。小雨が降り暗くなっているのに、レンズをいろいろと替えて写した。チャリー検問所のバスの中の一時間は、長くて怖かった。東ベルリンは緊張の連続でカメラもブレた。まさか帰国後一週間で、壁が崩壊されるとは、それで私の写真展が開けたときは、ベルリンの壁は、私の人生に、素晴らしい思い出と感動を残して消えた。ドイツの人たちに幸せを約束して。

辻 恵 子



ベルリンの壁

故阿部要介会員の遺族、作品寄贈

今年4月に逝去された阿部要介氏は、北海道立近代美術館協議会委員であり、当会の会員でもありましたが、広報部門などで会の運営にもご尽力をいただいた方です。そのご遺族から平成2年度第1次収蔵作品として北海道立近代美術館にガレ工房の水仙文花器が寄贈されました。



寄贈された花器

仔犬一匹



藤本 英夫

お盆をひかえての八月十日朝、玄関をあけると白い仔犬が一匹、外階段の支住につながれていた。側にはトリのモモ肉がひとかたまり。隣近所の奥さんたちは、「フジモトさんで犬を飼った」と、思ったという。わが家では以前、老衰で死ぬまで飼った犬がいた。それで犬の老を見るのはもうコリゴリ。だいたい己が老人になってるんだから、以来、犬は飼わないことにしていた。それなのにこの仔犬。知り合いに相談するといろいろな意見が寄せられた。なかでもこたえたのは、「動物霊というのがあるから、なまじの扱いはしない方がいい」という哲学的なアドバイス。保健所に持っていかうかという考えがこれで挫折。「お盆をひかえてできないうわ」といつていたカミさんのほっとした顔。月形刑務所製作のリップな犬屋敷を買ってやると、仔犬は大喜び。これで、わが家の一員がふえることになりそうだ。

それにしても前の飼い主さん「名前くらい首輪につけてくれてもよかったのに」と、カミさんはばやきながら考えて、「幸を運んでくれた仔犬であるように」ということでこの犬、わが屋では「ハッピー」と呼ぶことにした。

レンブラントに魅られて



松田 悦子

10年前の初夏のパリをあとにオランダは阿姆斯特ダムに飛びました。広場に面した古い建物がレンブラントの家でした。歴史画の修業のうち肖像画家として名声を確立し活躍した彼の作品に緊張と興奮を覚えたものでした。幼い頃から聖書に親しんだ人らしく聖書の世界を身近に引きつけ内から光を放つような色調、薄明りのなかの静寂さ、光と影の画面を持った運命的な人間の有様、数多い自画像、なかでも晩年の（画架の前の自画像）など既成の枠にとらわれずに独自の表現を追求した人、晩年は孤独であり苦境にあっても屈服せずに絵を描き続け、六六年三才の生涯を閉じるまで終生オランダを離れなかつたことを知り今更のように思い出して居ります。

第1回研修会に参加して



丸井 陽子

現代絵画での表現の幅の広さは、理解が難しくその様な作品に対して理解を得るための、アプローチとして行たわれた研修会でしたが、研修に当たりレポーターを勤められた斉藤さんは、百冊近い文献を調べ資料を作製して下さいました。内容は解りやすく纏められており解説部の資料として役立つ立派な物と言えます。私達の仲間に若くて優秀な方が居て下さる事はとても心強く思うと共に、解説部の主要課題とも言える「マンネリにならず、新鮮な気持ちを持ち続け、より良い解説を行う事」その為にも独自の努力そとれに伴っての勉強が求められます。今回の研修会を機に自己研鑽を積むことを心掛け、求館者に満足していただけるボランティアでありたいものです。

新しい観点



斉藤 智子

幼い頃絵を画く事が好きでしたので何十年ぶりに絵筆を取って見たのですが思うに任せておりました。でも人生絵と係わって過していきなうと思っていました。

偶々当美術講座の開催を知り応募しました。格調の高い講義で苦勞しますが、何度もの講義で洋の東西を問わず巨匠といわれる人の表現力の素晴らしさを改めて理解出来る様になりました。

自然が描かれた絵が好きなのですが、花鳥を描く時日本画は自然に存在する花鳥であるのに対し、西洋画は花瓶の花であり剥製の鳥であることを知って、なるほどと思ひあたりました。これからは当講座で学んだことを参考に、これまでとは違った観点から絵を鑑賞することが出来るものと楽しみにしております。

ボランティアの活動

ボランティア NOW

現在、北海道立近代美術館でボランティア活動をしているのは、売店部門48名、解説部門53名、資料整理部門18名で、活動日はおおそ売店・資料整理部門で週1回半日、解説部門で2週に1回半日のサイクルとなっています。

しかし、これだけの人数では十分ではなく、さらに増員が必要な状況にあります。

ボランティアになるための婦人美術講座受講者はいま、32名ですが、講座終了後受講者がどの部門を希望するかが注目されています。

売店活動

心に残るショップに

期待や夢をいだいて美術館にいらっしゃるお客様が、中に入られて先ず目にするのがミュージアム・ショップ、美術館の売店でしょう。

そこは、デパートや商店とは違う独特の雰囲気がかもし出され、素適な商品がディスプレイされていて、これから美術鑑賞へといざなうプロログ的役割の場ともいえましょう。

そこにはお客様の期待にたがわず、美術館にふさわしい、すぐれた美術書や図書、オリジナル商品、ガラス製品が充実していて、単に商品の売買にとどまらず、ふれあいの場としてまさに心こめた応待が、美術鑑賞後の余韻



をもあたためるのにふさわしい場として深くお客様の心に残るようなお店でありたい…と。

それには、美術館の望む売店像、私達ボランティアの求める売店像、二者の願いをうまく融合させながら、当面の課題、部員の増員に力を注ぐとともに、余裕ある人員、魅力ある店づくりをめざし活動しております。

(亀廻井偉慧子記)

あなたのおしゃれライフに

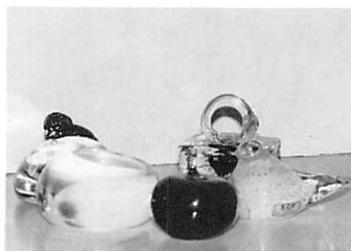
当ミュージアムショップでは、美術館にふさわしい絵葉書、図録、額絵その他たくさんの商品を販売しておりますが、特にお勧めしますのはペーパーウエイトです。

美術館オリジナルペーパーウエイト 2,300円
ガラスの角文鎮 800円
ガラスの丸文鎮 1,000~1,500円

など色とりどりございます。

メモ用紙の上に、読みかけの雑誌の上に、また飾物として、ちょっとしたおしゃれ感覚で、演出してみたいかがでしょうか。(伊藤 幸子記)

商品PR



ボランティアの活動

解説活動

試練を乗り越えて

解説部門の活動には、作品解説（コレクション・ギャラリーと三岸好太郎美術館）、アートレファレンスサービスでの応待、団体オリエンテーションなどがあります。解説員になるには婦人美術講座に始まる一年間の研修を受けなくてはなりません。婦人美術講座は学芸員が担当し、その後先輩解説員による新人養成研修があり、学芸員の講評、審査を受けます。

誰もが通らなくてはならない道ですが、この新人養成研修はかなり過酷です。解説シナリオの作成に始まり、シナリオの暗記、メモなしで人前で話す訓練、一連の課題が次々と与えられます。人前で話すことは時間がかなり解決してくれますが、シナリオの作成には最後まで苦勞されるようです。

残念な事に途中で去られる方もいらっしゃいますが、厳しく凝縮された時間を通して新しい“生きがい”を見出し共にボランティア活動に参加されることを願っています。

(井内 久美記)



先輩解説員の指導をうける研修生

資料整理活動

喜びを持って

専門書や資料がぎっしり並んでいる資料室の一隅が資料部員の活動の場です。

私たちは、ここで毎日6種類の新聞の美術に関する記事の整理と3,000点近い館蔵品のスライドフィルムの整理をしています。

時々、学芸員がその資料をお使いになるのを見かけます。そんな時「お役に立っているのだな！」と嬉しくなります。地味な仕事だけれど、学芸員の活動を通じて社会に繋がっていることに喜びを持って活動をしています。

これからも、よい資料を速く、正確に提供できるよう努めたいと思っています。

(川辺 安子記)



道立旭川美術館での研修を終えた部員

常盤会の動き

平成2年4月20日常盤会の総会を行う。前年度の活動報告、今年度の活動計画等、又館長よりの御礼のお言葉と今年度作品の年間計画を伺う。今年も大いに頑張ろうと決意を新たにす。

毎年総会には幹事、代表を含めて9名が決まり50名の会員より選出された役員で会の運営にあたります。内容は研修、庶務、会計、親睦、監事の五部を分担しています。喫茶コーナーも順調に運営できるようになりました。会員としては当館の作品展を少しでもPRすることが大きな奉仕活動であると、常々考えていま

す。ポスター張り、前売券の消化は知人友人、一人でも多くの人に来館して頂く事に努力しています。作品毎に例会を持ち、その時には、今開かれている作品について学芸員より解説も受けています。

今年7月24日で9年目に入りました。この間会員も変わりました。入会を希望される方は、必ず面接して、会の活動内容を説明し、納得していただけたら、始めて仮登録という形をとる事にしています。年一回の研修旅行は札幌の北海道立近代美術館を訪れ、名作品展を観賞し、自己を高めるよすがとし、今年はロシア絵画展を見学しました。奉仕活動ほど自分の確固たる意識を要求されるものはないと強く信じます。

(旭川道立美術館常盤会 高階美喜子)

ボランティアの活動

夏のイベント「サマー・ミュージアム」 ボランティア3部門合同で担当

夏休みに合わせて美術館が開催する、サマーミュージアムは、子供向けのイベントです。期間中ボランティアは、子供達に遊具の取扱いを教えたり、工作の手伝いをしています。

又、関連行事として今年3年目の絵本シアターを行いました。童話の場面をスライドで大きく映し、話を読み聞かせる企画で、今年は3部門合同で担当する事で、日頃顔を合わせる事がない他部門部員の交流を計る良い機会ともなりました。今後の活動の新機軸となりそうです。

(鈴木 雅子記)



絵本シアターに参加の子どもたち

「音の旅人」を寄贈

美術館ボランティア当初の念願であった『美術館に絵を寄贈』の思いがささやかながら果たされました。革葉、デコパージュの製作で得た資金で、渡会純价氏の版画、「音の旅人」シリーズ5巻（1巻4組）を購入し北海道立近代美術館に寄贈致しました。（飯田 淑子記）



寄贈作品の一部

事務局 だより

会員加入申込や会員証の発行は

2階売店で扱っております。

新しく会員になられる方や、会員証の期限切れで新しい会員証に切り替えられる方で、来館時に会費を添えて申し込まれる場合は、2階売店でその旨申し越し下さい。商品などご覧いただいている間に、会員証は出来上がりますし、当日からご利用いただけます。

会費を郵便振替で送金された場合、会員証は郵送されることとなりますのでお間違いないく。

住所の変更は必ずお知らせを

会員の皆さんに資料等の一斉発送をしますと必ず数通の郵便物が住所不明で戻ってきます。簡単に住所確認もできませんので、資料の未着等ご迷惑をかけることにもなります。住所を変更された場合は遅れないように事務局宛ご一報願います。

お答えに困る駐車状況

協力会では、道立近代美術館来館者のための駐車場を

用意しておりますが、駐車状況について事務局で電話照会を受ける場合が少なくありません。

事務局からは駐車場は見えませんし、現状を確認して回答しましても数分後に満車になってしまうこともあります。予約制もとっておりませんので、自家用車で来館される方の駐車は、到着時の状況で判断いただくしかありません。大抵は混んでいても少し待っていただければ駐車できるのが現状です。

会費の納入にご協力を

会費につきましては、会員証の期限が切れる月に、郵便振替用紙を同封して請求させていただいていますが、未納の方が相当数あります。納入忘れの方もあろうかと思っておりますので、今年度前半の該当の方には再度請求をさせていただきます。行違ひの場合はご容赦願ひまして、会費の早期納入にご協力を願ひます。